

発行No. : ES00-065

発行月 : 2000年07月

ワンポイントサービス情報

松下電器産業株式会社
A V C 社
放送システム事業部

件名 : AJ-DE77 (クイックカッター) ご使用上の注意

機種名 : AJ-DE77/D/H

<ご使用時の注意事項>

Quick Cutter アプリケーション は Microsoft の OS である WindowsNT 上で動作しています。起動時は普通のパソコンの様にみえますが、一般で使われるものと同じものではありません。Quick Cutter 独自のドライバーやレジストリ設定、カスタムドライバー等が多数あります。

決して、市販のアプリケーションやシェアウェア、フリーウェア等、他のソフトはインストールしないで下さい。又、NTのシステム環境設定を変更したり、市販のNTパッケージから標準のドライバーやサービスをインストールしないで下さい。サービスパックのインストールや更新をしないで下さい。

これらの行為は、すべて Quick Cutter の障害につながる場合があります。また、SCSI ポートにMOやPDは接続出来ません。IDE 接続タイプのPDも使えません。QuickCutter が正常に動作しなくなります。

Quick Cutter の使用については、AJ-DE77 に付属の取扱説明書・設置マニュアル、AY-AS77(QuickCutter ソフト)に付属のレファレンスマニュアルを充分にお読みください。

- ・ WindowsNT は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- ・ QuickCutter : AJ-DE77, AJ-DE77D, AJ-DE77H と Software : AY-AS77B / SU77B は、松下電器産業(株)放送システム事業部扱いです。
- ・ その他会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

<具体例>

1 : 本体と周辺機器の電源ONの順序について	P 2
2 : 外部増設ディスク接続とデータ記録について	P 2
3 : レンダリングに必要な空き容量について	P 2
4 : フォントの追加と削除について	P 3
5 : NTのシステム環境について	P 3
6 : アプリケーションが操作を受け付けなくなったり、NT OS が応答しなくなった場合	P 3
7 : トラブルを予防するための操作のコツ	P 4
8 : 具体的運用の参考例	P 5
9 : 不可解な現象を発生させやすい操作	P 6
付録1 : ガベージコレクション 実行時の注意と RDサルベージ、Invalid データ	P 7-8
付録2 : 補足と解説	P 9

1 : 本体と周辺機器の電源ONの順序について

外部増設HDD

外部増設HDDの電源を QuickCutter より先に入れる。

最初、それぞれのDISKで赤ランプが2つ点灯し、順に緑ランプに変わります。

2つ並んで点灯しているランプの内、右側の緑ランプが順に消えていきます。

それぞれのDISKの緑ランプが1つ点灯した状態で QuickCutter の電源を入れるのが基本的なタイミングの目安です。

外部VTRを使用する場合

QuickCutter より先に電源を入れて下さい。

QuickCutter が動作している最中はVTRの電源を切らないで下さい。

2 : 外部増設ディスク接続とデータ記録について

記録ディスクの指定

自分で指定する事はできません。

内蔵と外部、どちらのハードディスクに映像データを記録するかは、QuickCutter が自動で選択します。

データの記録を始める段階で空き領域の多い方を優先してデータを記録します。

例：空き容量が内蔵 70 分、外部 75 分の場合、外部の方にデータが入ります。

その結果、外部の空き容量が 6 0 分になったとすれば、次に記録するデータは内蔵ディスクに入ります。

外部ディスクの分離使用

編集データが入った状態で外部ハードディスクを外したり、交換しないで下さい。

その状態でクイックカッタを使用すると、管理情報と実データの不一致が発生し、すべての編集データが使えなくなる事があります。

QuickCutter は、データの管理情報と実際のデータを別々のディスクに保存します。

実際の映像音声データはテープから取り込んだ分だけAVハードディスク上にデータとして記録されます。

CRT 画面上で見えるビデオクリップやシーケンスのアイコン、その名前、時間等の管理情報は、アプリケーションプログラムが存在する System ハードディスクに記録されます。

編集作業には管理情報と実データがセットが必要です。

3 : レンダリングに必要な空き容量について

素材データの取り込みを全容量の半分程度に抑えるのが、レンダリング用の空き容量を考慮した使い方の目安です。

4倍速度でテープにデータを落とす場合、事前に合成部分のレンダリングを行い、作業データをディスク上に作成します。この作業に空きディスク容量が必要になります。この値は、総エフェクト時間と総タイトル(テロップ)表示時間とを合計した時間です。内蔵 X4VTR への Rec To Video 実行の際は、この値が MaxDuration の表示値を超えないように注意して下さい。

なお、1倍速で外部のVTRに書き戻す場合は、リアルタイム処理となります。

4：フォントの追加と削除について

フォントを追加インストールすると、その分、作業メモリが使用されます。

追加するフォント数によっては、編集集中に使用可能なメモリーが無くなり、“リソース不足”エラーが発生し、管理情報の一部が破壊される可能性もあります。

フォントの追加は本当に必要なもののみにとどめてください。（目安は10フォント程度）

最初からインストールされているシステムフォントは削除しないで下さい。

これらの英字フォントは、NT OS や編集アプリケーションが使用します。

5：NTのシステム環境について

NTのシステム環境設定は変更しないで下さい。

スクリーンセーバーや、壁紙は設定しないで下さい。

市販のNTパッケージから、ドライバーやサービスを追加したり、サービスパックの更新も行わないで下さい。QuickCutter が動作しなくなる場合があります。

6：アプリケーションが操作を受け付けなくなったり

NT OS が応答しなくなった場合

以下の方法で対処します。いきなり電源を落とさない様にして下さい。

6-1：マウスを受け付ける場合

- ・画面下へのタスクバーを右クリックし、ポップアップメニューでタスクマネージャーを選択、起動します。
- ・現在実行されているタスクが表示されます。
- ・応答待ちのタスクを選択し、それらを強制終了させます。
- ・その後、Windows NT を終了させます。

6-2：マウスを受け付けず、キーボードは受け付ける場合

- ・Ctrl + Alt + Del を実行するとWindows NT のセキュリティウィンドウが起動します。
- ・Tab キーでタスクマネージャボタンにフォーカスを移動し、Enter キーを入力します。
- ・タスクマネージャが起動するので、応答待ちのアプリケーションを終了させます。
- ・終了出来ない場合は Ctrl + Alt + Del でシャットダウンを実行します。

6-3：マウスもキーボードも受け付けられない場合

- ・30分程度待つとマウス、キーボードを受け付けるようになることがあります。その場合[1：マウスを受け付ける場合]で対処します。
- ・受け付けられない場合はQuickCutter本体をハードリセットします。（本体FD左側の小さな穴）
- ・ハードリセットで再起動させてもWindows NT が正常に起動しない場合は、NT OS に障害が発生している事が考えられます。
- ・本体下前面のディスクアクセスランプが点灯していない時に、本体の電源を落とします。

7 : **トラブルを予防するための操作のコツ**

メモリリソースの使用量をおさえるには

- ・作業中のシーケンスはこまめに保存する。
- ・使わないBINは閉じる。
- ・タイトルエディターは複数開かない。
- ・席をあける時は、アプリケーションを終了させ WindowsNT を再起動させる。
- ・時々アプリケーションを閉じて再度開く（閉じる前にデータはセーブする）。

D i s k 容量をうまく使うには

- ・素材はなるべく短めのクリップに分けて取り込む。
- ・長い作品は、幾つかのシーケンスに分割して作成する。

Dr.ワトソンを出さないために

*Dr.ワトソンはWindowsNT がアプリケーションの異常動作を止めた時に表示するエラーメッセージです。

- ・他のアプリケーションをインストールしない
- ・他のハードウェアを接続しない（MO、PD）
- ・マウス、キーボード操作は間をあける（早過ぎる連続操作に注意）

Windows アプリを快適に動かす一般的なコツ

- ・ウィンドウをあまりたくさん開かない
- ・ウィンドウを素早く連続して切り換えない
- ・ウィンドウの位置や大きさを頻繁に変えない
- ・マウスでダブルクリックの後は、間をおいて次の操作に移る。
- ・複数選択での移動、コピー実行後はすぐに次の操作に移らない。

万一、エラー表示が出てしまったら

- ・エラーが発生したら、アプリケーションを終了し再起動させる。
- ・RD サルベージを実行し、Detect で Invalid Data が出来ていないか確認する必要があります。（RD サルベージの使用方法は管理者の方にご確認下さい）。
- ・Invalid Data が発生していたら、速やかにそのデータを消して下さい。編集を続けると、シーケンスや他のデータに障害が拡大する場合があります。

*RD サルベージのCleanUp を実行する前に QuickCutter 上からサルベージを実行しておいてください。

8 : 具体的運用の参考例

下記のような運用上の配慮により、開くウィンドウ数を抑え、かつ、メモリ消費量を節約しながら、作業毎に発生するウィンドウの再描画の負担を軽くさせる工夫ができます。

B I Nの構成

Top B I N _____

	__作業	シーケンスを作成
	__タイトル	タイトル作成
	__素材 1	30枚程度の素材
	__素材 2	30枚程度の素材
	__素材 3	30枚程度の素材
	__素材 4	30枚程度の素材
	__素材 5	30枚程度の素材
	.	
	.	
	.	

- ・素材を各素材 B I N に 30枚程度に分散させて取り込みます。
(9クリップ×4列までは表示範囲外のクリップを選ぶためのスクロールが省略できます。)
- ・作業 B I N にシーケンスを作り、素材 B I N からクリップをシーケンスに乗せた後、素材 B I N を全て閉じます。(閉じた素材 B I N のメモリリソースが開放されます。)
- ・タイトル B I N には都度タイトルを作成し、シーケンスにそこから乗せる様にします。
- ・実作業は、作業 B I N とタイトル B I N の2つを開いた状態で行います。
- ・Render To Clip でのクリップ作成とか作業途中に発生するクリップ作成は作業 B I N 上で行います。
- ・シーケンスは10分毎程度で Save します。(作業過程で使われたメモリの開放)
- ・完成後は全てのデータを消去します。

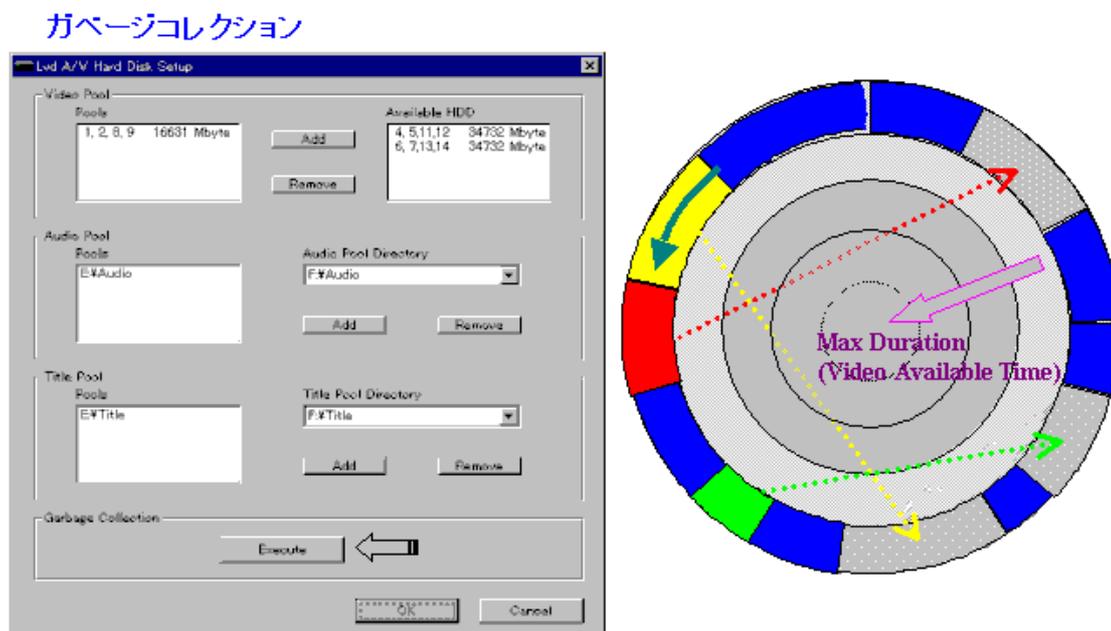
9 : 不可解な現象を発生させやすい操作

以下のことで必ず問題が発生するというわけではありませんが、Windows アプリの動作を不安定にさせやすい場合を、クイックカットの操作例で例えてみました。操作上の注意の目安として下さい。

- ・シーケンスをセーブすることなく細かい作業を長時間を続ける。
- ・その状態で（シーケンスデータを開いたまま）デジタイズを行う。
- ・バッチデジタイズを途中で停止させる。
- ・レンダリングを途中で停止させる。
- ・Rec To Video を途中で停止させる。
- ・Rec To Video 中にVTRのストップボタンを押す（クリックする）。
- ・ウィンドウをたくさん開き、次々に素早く操作する。
- ・クリップを多数選択して一括削除の実行中に、次の操作へ移る。
- ・シーケンス上のデータを多数同時選択し、一括削除の実行中に次の操作に移る。
- ・あるウィンドウの処理が終了する前に、別ウィンドウで作業を始める。
- ・（オーディオレベルメータのように）実行中のウィンドウを複数開こうとする。
- ・編集作業中、途中から外部拡張 HDD を接続し、作業を続行しようとする。
- ・多数のフォントを追加して（100～多数）使用する。

付録1：ガベージコレクション 実行時の注意と RDサルベージ、Invalid データ

記録、消去を繰り返すとDiskの空きエリアがデータによって分断され、連続記録可能な時間が減少します。ガベージコレクションは、このデータを再配置させ、分断された空きエリアを解消します。



しかし、Invalid Dataが存在すると、データの再配置結果は予期せぬものとなります。Invalid Dataを消去するまでは、ガベージコレクションを実行しないようにして下さい。

まず、ガベージコレクションを実行する前に、RDサルベージで Invalid Streamが無い事を確認します。

RDサルベージは必ず、QuickCutterアプリケーションが動作していない状態で実行して下さい。起動方法は、C:\%QuickCutter%\Tools\Rdsalv.exeをダブルクリック。ダイアログが表示されるので、Detect ボタンをクリックします。タイプ別にValid Stream、Invalid Streamが表示されます。

表示されたInvalid Streamが0でない場合は、

- 一旦、Rdsalv.exeを終了させ、QuickCutterを起動し、サルベージを実行します。
- QuickCutterのサルベージを実行した時、不良クリップがあれば削除されます
- “サルベージされたクリップはありませんでした”のメッセージ確認後、再び、RDサルベージを起動して、CleanUpボタンをクリックして、残ったInvalid Streamを消去します。
- 注：この操作で、InvalidStreamとなったクリップデータはBINから削除されます。そのクリップを使っていたシーケンスも削除されます。

Invalid Stream **が存在する状態でガベージコレクションを実行すると、**

- ・シーケンス再生が正常に出来ない。
 - ・Rec To Video 途中で停止する。
 - ・音声映像にノイズが入る
 - ・取り込んだデータ量の割には空き時間が少ない。
 - ・アプリケーションエラーが頻発する
- 等の現象が発生する危険があります。

もし、そのような状態なってしまった場合は、Avinit.exe でディスクをイニシャライズします。その時、全てのデータは消去されますので、必要なら、事前にクリップをテープに退避させ可能な限りタイトルをバックアップしておいて下さい。

起動方法は、C:¥QuickCutter¥Tools¥Avinit.exeをダブルクリック。ダイアログが表示されるので、Initialize ボタンをクリックします。

Invalid Stream **とは**

- ・Batch デジタイズ途中で強制的に止めた時
- ・レンダリング途中で止めた時
- ・クリップを複数選択して削除中にアプリケーションエラーを起こした時などに発生する事があります。

Invalid Stream の存在は管理情報の部分破壊を意味します。

アプリケーションエラーが頻繁に発生する場合は、Rd サルバーページの実行をお勧めします。

付録2：補足と解説

<メモリの使用量をおさえるには>

作業中のシーケンスはこまめに保存する (File Save)

- ・シーケンス作業を続けていくと、作業途中のデータにより空きメモリが消費されていきます。
- ・空きメモリが少なくなりすぎると、NTの動作が重く鈍くなります。
- ・シーケンスデータを保存することにより、作業途中の一部のメモリが開放されます。
- ・WindowsNTを再起動させると、さらに効果の出る場合があります。
- ・十分な空きメモリを確保出来なくなると大きなエラーを引き起こす可能性が高くなります。
リソースの確保に失敗 . . . のメッセージが出た場合は、アプリケーションを終了し、再起動させてメモリを開放させましょう。

使わないBINは閉じる タイトルエディタは複数開かない

ウィンドウ (BINやエディタ等) を開くほど、メモリリソースは消費されます。

シーケンスエディタを開いた状態で、デジタイズを行うと多くのメモリリソースが使われます。タイトルエディタはそれ以上のメモリを使用します。

フォントの追加はタイトルエディタ使用中の空きメモリをさらに減らす事になります。

<Disk容量をうまく使うには>

素材は短めく分けて取り込む

素材を短く複数のクリップにして取り込んでおく事で、作業中にディスクの空き容量が少なくなった場合に、使用しないクリップを削除したり必要な部分のみ切り出して残すことで空き容量を増やす作業がやりやすくなります。

シーケンスの分割作成

長尺ものは1つのシーケンスで作らず2、3のシーケンスに分割して作成し、テープに落とす時に分割作成した分をアッセンブルでつなぐよう構成を工夫します。分割して落とすことによりレンダリング時のディスク使用量をおさえるのが目的です。レンダリングでのディスク使用は一時的なものでありテープに落ちたあとは必ずレンダリングデータを削除します。その分の容量が復活し、次のレンダリングで使えます。

* 4倍速度ではアッセンブルの編集精度は [4フレーム以内] が保証範囲です

* 1倍速度ではアッセンブル編集精度がフレーム保証されます。

注：4倍速度アッセンブルでも、フレーム単位でつながります。

ただし、4フレーム内の第1から第3フレームの別フレームにつながる場合があります。

<SCSI デバイスの接続>

他のハードウェアを接続しない (MO、PD)

SCSIポートにMO等を接続するとQuickCutterは動作しなくなります

接続した状態ではQuickCutterの動作が鈍くなり、最悪の場合、WindowsNTがハングアップやブルースクリーンで落ちる事もあります。